

ご挨拶



就任のご挨拶

古武 弥一郎 医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻
薬学講座 生体機能分子動態学 教授

この度、広島大学大学院医歯薬保健学研究科 生体機能分子動態学研究室教授を拝命しました古武弥一郎（こたけやいちろう）と申します。この場をお借りして皆様にご挨拶申し上げます。

私は1993年に東京大学薬学部を卒業後、同大学院修士課程、博士課程を修了し、博士（薬学）の学位を取得しました。学部生の頃より、本年3月に本学をご定年退職された太田 茂先生のご指導を受け、大学院修了後も広島大学教授に就任された太田先生の下で研究を行ってまいりました。今春で広島大学に来て20年半になります。

私は環境中に存在する化学物質の神経毒性メカニズムや、神経毒性評価指標の探索、パーキンソン病発症に關与する環境因子解明などに興味を持って研究を行ってきました。この世の中には知られているものだけで1億数千万種類の化学物質が存在し、我々の身の回りに限っても数十万種類あるといわれています。ところがこれらの大部分は毒性が未解明で、その中には疾患の原因になっている物質群もあることが予想されます。これらの毒性解明や疾患環境因子の絞り込みなどを通じて、また、次世代の人材育成を通して広島大学の発展に微力ながら貢献する所存であります。皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

座右の銘

無事之名馬（ぶじこれめいば）

杉山 勝

医歯薬保健学研究科 口腔健康科学専攻 口腔健康科学講座 公衆口腔保健学 教授



元来、座右の銘を持たない身であり、川の流れのように、時には強く、また、時には弱く流れるものの、決して溢れることなく、また、涸れることのない「自然流」を心がけて来ましたが、60歳を超え健康に不安が生じた後は、「無事之名馬」という言葉が頭をよぎることが多くなりました。かといって、健康第一の生活を送ってきた訳ではなく、時には、それこそ命がけで仕事をしてきました。しかし、大学以外にも生活があり、そこでも色々なことを求められることから、「自らの健康なくしては、何も始まらない（死んだらおしまい）」と考えるようになりました。

昨今は、大学に勤務する者も自由人ではなく、実績を挙げることが強く望まれる時代になって来ました。これを叶えるには、hard workせざるを得ないことも多いですが、特に60歳を超えた方々には、やはり健康第一ということで、頑張っていただければと考えております。